Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SVC050-02 会場:302 時間:5 月 23 日 08:45-09:00

2011 年霧島山新燃岳の噴火活動（概要）
Eruption of Sinmoedake volcano, Kirishimayama, 2011 (Outline)

気象庁・福岡管区気象台・鹿児島地方気象台 [1], 山里 平 [1*]
JMA[1], Hitoshi Yamasato[1*]

[1] 気象庁
[1]JMA

霧島山（新燃岳）の火山活動は、2008 年 8 月、2010 年 3〜7 月に、ごく小規模〜小規模な噴火が発生するなど、やや活発な状態が続いていた。2011 月 1 月 19 日から噴火が始まり、活発な噴火活動が続いている。

1 月 19 日からの噴火は小規模なマグマ水蒸気噴火であったが、26 日からの連続噴火はマグマが火口まで上昇したマグマ噴火となった。28 日頃からは空振を伴う BL 型地震の群発があり、新燃岳火口に溶岩が出現した。溶岩は次第に大きく成長し、2 月 4 日現在では、火口縁付近まで盛り上がり、溶岩湖を形成している。1 月 27 日からは爆発的な噴火が時々発生するようになり、噴石が火口から 3.2km にまで飛散し、空振によって窓ガラスが割れる等の被害があった。

火山ガスの放出活動も活発で、二酸化硫黄の放出量は 1 万トン／日以上である。

傾斜観測では、韓国岳付近の直下深部の収縮を示す地殻変動が観測され、活発な噴火活動や溶岩ドームの成長時期に収縮レートが大きくなる傾向が認められた。収縮は、深いマグマだまりから新燃岳へマグマが上昇していったことを示すと推定される。

本講演では、今回の噴火活動について、気象庁の観測データを中心に、その概要を紹介する。